

## 令和4年第1回北海道議会定例会 代表質問

開催年月日 令和4年(2022年)3月3日(木)

質問者 民主・道民連合 笹田 浩 議員

答弁者 知 事 鈴木 直道

### ○笹田浩議員

今回の調査で中学2年生の約85%、全日制高校2年生の約40%、定時制高校2年生の約50%が小学校段階からケアを始めています。

この結果を踏まえると、早急に小学生の実態調査をすべきと考えますが、知事並びに教育長の所見を伺います。

併せて小学生への相談強化も必要と考えますが、知事並びに教育長の所見を伺います。

さらに、道はこの4月、北海道ケアラー支援条例を施行するとしましたが、対策の実効性を高めるためには、学校と支援する自治体との連携が重要となってきます。具体的にどのような取組を行い、支援を進めていくのか、知事並びに教育長の所見を伺います。

### ○鈴木直道知事

ヤングケアラー支援に向けた今後の取組についてであります。ヤングケアラーの多くは、本人の自覚がないことや支援策について相談した経験がないことなどから、周囲の関係者の方が一人一人の事情を理解し、信頼関係を構築した上で、必要な支援に結びつけていくことが重要であります。

このため、道としては、現在提案しているケアラー支援条例案に、普及啓発の促進、早期発見や相談の場の確保などの基本的施策を掲げているところであり、特にヤングケアラーについては更なる実態把握のため、大学生及び小学生への追加調査の速やかな実施や、放課後児童クラブや子どもの居場所などにおける気づきの促しと早期発見に向けた体制整備に取り組んでまいります。

また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣の拡充や学校と市町村などと調整役を担うコーディネーターの配置により、学校における早期発見と関係機関による適切な支援につなげるなど、学校と自治体が十分に連携し、それぞれの子どもの家庭の事情や気持ちに寄り添った支援を進めてまいります。